第8回 化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム

International Symposium on Endocrine Disruption 2005

Program for General Audiences
一般向けプログラム

This program will be in Japanese only.

2005年12月4日（日）

沖縄ハーバービューホテル

Sunday, December 4, 2005

Okinawa Harborview Hotel, Okinawa, Japan

2005年12月4日（日）　［一般向けプログラム］

14:00	開会挨拶
14:30-16:00	パネルディスカッション 「今、自然界で何が起こっているのか？ ～内分泌かく乱作用から生態系をどう守っていくか～」 コーディネーター：北野　大　（淑徳大学） パネリスト：井口　泰泉（自然科学研究機構） 崎田　裕子（ジャーナリスト・環境カウンセラー） 須之部友基（千葉県立中央博物館） 中山エミリ（タレント） 安間　繁樹（農学博士）

今年、新たにはじめられた環境省の化学物質の内分泌かく乱作用に関する取り組み“ExTEND2005”（「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について-ExTEND2005-」を短縮して“ExTEND2005（エクステンド2005）”と呼びます）、この重要な柱のひとつが「野生生物の観察」です。

野生生物についてなんらかの異変が観察された場合、異変の原因として内分泌かく乱作用も含めた化学物質の影響が疑われることが少なくありません。しかし、野生生物の異変について判断するためには、まず、そもそもの野生生物の生態を把握している必要があります。また、異変の原因については、温度や日照時間の変化といった自然界の変化、化学物質の影響も含めた様々な人間活動の影響といった、色々な要因を考慮する必要があります。

現在のところ、野生生物について本来の生態が十分に把握されているものは、ごくわずかです。つまり、もし野生生物の異変が報告されたとしても、本当に異常なことなのか、もし異常だとすれば、それがどういった影響（内分泌かく乱作用も候補の一つです）によるものなのか、などが判断しにくいのです。そのため、ExTEND2005では「野生生物の観察」の重要性が強調されています。

そこで、今回のパネルディスカッションでは「野生生物の観察」に焦点を絞り、『今、自然界で何が起こっているか？～内分泌かく乱作用から生態系をどう守っていくか～』をテーマに議論を行います。ディスカッションでは、継続的な野生生物観察を行っている研究者、野生生物の異変と化学物質（特に内分泌かく乱作用）との関連について研究を進めている専門家等、実際の現場に長年携わっている方からの報告VTRをもとに話し合いを進めていきます。

▽報告VTR①「カエルが減っている」　報告者：富岡克寛（地域研究者）

～40年間、群馬県を中心に調査を行っている民間研究者からの、カエルの生息数に関する報告。

▽報告VTR②「状況で変化する野生生物の性別」　報告者：桑村哲也（中京大学教授）

～いわゆる環境ホルモン問題で大きな注目を浴びた、オスがメスに変化するなどの性別の変化。自然界での、この“性別変化”という現象についての研究報告。

▽報告VTR③「英・ローチ研究の今」　報告者：チャールズ・タイラー（英・エクスター大学教授）
井口泰泉（自然科学研究機構 教授）

～イギリスにおける約20年に及ぶ調査研究から分かってきた、ローチ（淡水魚）のメス化の原因についての報告。

出演者一覧

北野　大

淑徳大学 教授

1942年 東京都に生まれる。1972年 東京都立大学大学院工学研究科工業化学専攻博士課程修了(工学博士)。財団法人化学物質評価研究機構企画管理部長を経て1994年 淑徳短期大学食物栄養学科教授、1996年淑徳大学国際コミュニケーション学部経営環境学科教授、2000年　同学科長、2004年 淑徳大学人間環境学科教授に就任。主な著書：『人間・環境・安全』(共立出版)。『循環型社会への提言』(研成社)、他多数。2004年『2004年度日本分析化学会技術功績賞』受賞。

須之部　友基

千葉県立中央博物館

1982年 鹿児島大学水産学部卒業。1984年 鹿児島大学大学院水産学研究科修士課程修了。九州大学大学院農学研究科博士課程修了(農学博士)。1991年 千葉県立中央博物館に勤務。主な著書及び学術論文:『魚類の繁殖行動』(東海大学出版会)、『オキナワベニハゼにおける社会構造と双方向性転換』(Ethology誌)、『オキナワベニハゼの性転 換におけるステロイド合成酵素アロマテースの役割について』(Comparative Biochemistry and Physiology 誌)など多数。

井口　泰泉

自然科学研究機構 教授

岡山大学大学院修士課程修了、東京大学理学博士、1979年 横浜市立大学文理学部助手、1981-83年 カリフォルニア大学バークレー博士研究員、横浜市大助教授を経て1992年 教授に就任。2000年からは基礎生物学研究所教授を経て、岡崎国立共同研究機構・統合バイオサイエンスセンター教授に就任し、現在に至る。マウス、魚やカエルを用いてホルモンや内分泌かく乱物質の発生影響を研究している。日本内分泌撹乱化学物質学会副会長、環境省、厚生労働省、国土交通省などの委員。主な著書：『細胞を中心とした生物学』(広川書店)、『器官形成』(培風館)、『生殖異変』(かもがわ出版)、『環境ホルモンを考える』(岩波書店)、この他アメリカでの著書、学術論文多数。

中山　エミリ

タレント

1978年（昭和53年）生まれ。1995年「ポカリスエット」CFでデビュー。ABC「たけしの万物創世記」TBS「筋肉番付」NTV「速報！歌の大辞テン！！」、TX「ASAYAN」等の司会。舞台では、宮本亜門演出「くるみ割り人形」、パルコ劇場「LOVE LETTER」それぞれ主演。テレビドラマにも数多く出演。現在、CF「三井住友VISAカード」「花王」「タイガー魔法瓶」「丸八真綿」「バイク王」NHK「科学大好き土曜塾」司会、TFM「Amitie du weekend」パーソナリティーに出演中。映画「バッシュメント」2005年12月公開。

崎田　裕子

ジャーナリスト・環境カウンセラー

1974年　立教大学社会学部卒業。（株）集英社に入社し、11年間雑誌編集を務めフリージャーナリストに。以来、生活者の視点で環境問題、特に「循環型社会づくり」を中心テーマに講演・執筆に取り組むと共に、環境カウンセラー（環境省登録・市民部門）として、環境学習の推進にも広く携わる。また、生活者・NPOの立場で、多数の政策形成の委員会等に参加。環境省、経済産業省、国土交通省、東京都などの委員。NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長、NPO法人新宿環境活動ネット代表理事（新宿区立環境学習情報センター指定管理者)。主な著書：『だれでもできる　ごみダイエット』（合同出版)、『ごみゼロ東京が見えた日』（日報)、『環境ビジネスウィメン』（日経BP）共著、他多数。

安間　繁樹

農学博士

1967年 早稲田大学法学部卒業。法学士。1970年 早稲田大学教育学部理学科(生物専修)卒業。理学士。1979年 東京大学大学院農学系研究家博士課程修了(農学博士)。世界自然保護連合種保存委員会ネコ専門家グループ(IUCN・SSC)委員。熱帯野鼠研究会常任委員、財団法人世界自然保護基金日本委員会(WWF Japan)、財団法人平岡環境科学研究所評議員としても活躍。イリオモテヤマネコの生態研究を最初に手がけ、成果をあげた。1986年以来、国際協力機構(JICA)海外派遣専門家としてボルネオ島の調査および研究指導に携わっている。主な著書：『野生のイリオモテヤマネコ』(汐文社)、『ボルネオ島最奥地を行く』(昌文社)、『琉球列島生物の多様性と列島のおいたち』(東海大学出版会）など多数。